

もも栽培情報 第3号

令和6年4月24日
J A アルプス
富山県富山農林振興センター

1 概況

園芸研究所果樹研究センター（魚津市）では、「あかつき」の開花始め（2～3割開花した日）は4月7日（前年値3月30日、平年値4月9日）で、平年より2日早くなりました。

今後は、実どまりが確認でき次第摘果作業を進め、スムーズな果実肥大を促しましょう。

2 病虫害防除

せん孔細菌病の重要防除時期です。散布間隔が空きすぎないように、また、散布ムラのないよう下表を参考に防除を実施してください。なお、コンフューザーMMを使用する場合は、5月初旬頃に、10アール当たり100本設置してください。

結実樹（散布量：5回目：350L/10a、6回目以降：400L/10a）

回	時期	対象病虫害	使用農薬	希釈倍率	100L 当たり 必要 薬剂量
5	5月上旬	黒星病 せん孔細菌病 (展着剤)	デランフロアブル バリダシン液剤5 マイリノー	600倍 500倍 20,000倍	166 mL 200 mL 5 mL
6	5月中旬	せん孔細菌病 アブラムシ類、モモハモグリガ、 シンクイムシ類、カメムシ類 (展着剤)	マイコシールド スタークル顆粒水溶剤 マイリノー	2,000倍 2,000倍 20,000倍	50 mL 50 g 5 mL
7	5月下旬	せん孔細菌病、黒星病 アブラムシ類、モモハモグリガ、 シンクイムシ類、ハマキムシ類 (展着剤)	デランフロアブル サイアノックス水和剤(※) マイリノー	600倍 1,000倍 20,000倍	166 mL 100 g 5 mL

※：コンフューザーMMを設置する場合、サイアノックス水和剤の散布は必要ありません。

未結実樹

(散布量：5L 以上/樹)

回	時期	対象病虫害	使用農薬	希釈倍率	100L 当たり 必要 薬剂量
4	5月上旬	黒星病、せん孔細菌病 (展着剤)	デランフロアブル マイリノー	600倍 20,000倍	166 mL 5 mL
5	5月中旬	せん孔細菌病 アブラムシ類、モモハモグリガ、 シンクイムシ類、カメムシ類 (展着剤)	マイコシールド スタークル顆粒水溶剤 マイリノー	2,000倍 2,000倍 20,000倍	50 mL 50 g 5 mL

農薬散布の際は、濃度や対象病虫害など、農薬容器のラベルを必ず確認してください。
また、周辺の他の作物や住宅等に薬剤が飛散しないよう十分注意してください。

3 摘果作業

遅い時期に強い摘果をすると、核割れ果（渋み果）の発生を助長するので、予備摘果・仕上げ摘果・袋掛け時の補正摘果を順次行い、スムーズな果実肥大に努めましょう（図1）。

(1) 予備摘果

最終着果量の2倍程度の果実を残しましょう。満開20日後頃から行い、満開30日後までに終わらせましょう。小さい果実や病虫害被害果、着果位置の悪い果実（上向き、結果枝の先端、枝に挟まる果実、主枝・亜主枝の先端部分）を落としてください。

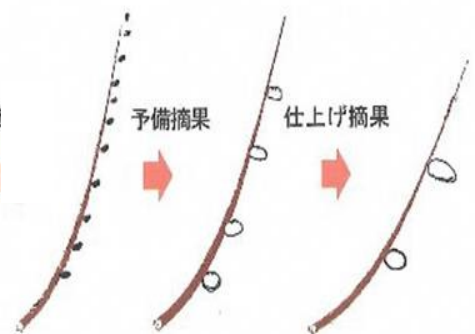


図1 予備摘果から仕上げ摘果までの流れ

(2) 仕上げ摘果

満開 40 日後から、硬核期の始まる満開 50 日後までに実施してください(図 2)。奇形果や双胚果(写真)、病虫害の被害果を摘果してください。ただし、生理落果が多い品種はやや多めに着果させてください。

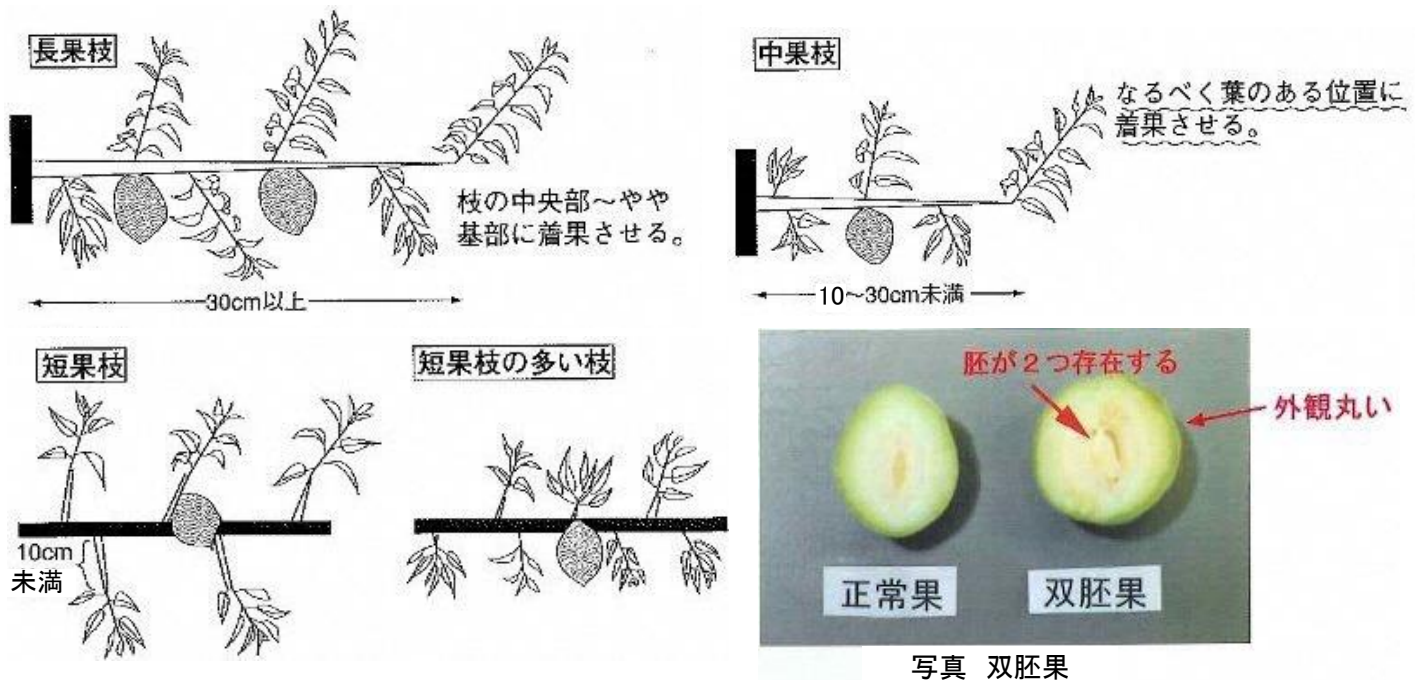


図2 仕上げ摘果時の着果位置

(3) 着果量の目安

結果枝の長さ別着果量は下表を参考にしてください。

葉芽が少なく、葉枚数が確保できない場合(※)は、着果量を少なめにしてください。

※:果実1個に必要な葉枚数→仕上げ摘果時:15~20枚、収穫時:60枚

結果枝の種類(長さ)	結果枝本数当たりの着果数(予備摘果後)	結果枝本数当たりの着果数(仕上げ摘果後)
長大な長果枝(50~80cm)	1本に6~7果	1本に4~5果
長果枝(30~50cm)	1本に4~5果	1本に2~3果
中果枝(10~30cm)	1本に2~3果	1~2本に1果
短果枝(10cm未満)	1本に1果	3~4本に1果
花束状短果枝(2~3cm)	4~5本に1果	8~10本に1果

(4) 袋かけ・補正摘果

灰星病やせん孔細菌病の果実感染防止のため、仕上げ摘果終了後、すみやかに袋かけを開始し、6月中旬を目途に終了させてください。なお、袋かけ時に小玉果や傷果など、見直しの摘果(補正摘果)も行ってください。

4 徒長枝の管理

主枝や亜主枝、側枝等を育成するため、強い新梢は**切除**、**捻枝**を行います。硬核期間中に切除すると生理落果を助長しますので、5月末頃までに実施し、捻枝は新梢に柔軟性がある5月下旬~6月下旬に行いましょう。

なお、主枝の背面から発生した徒長枝は、基部から3~4節残して**摘心**(先端を切除)することにより、主枝背面の日焼け防止につながります。

●農作業に当たっては、こまめに水分を補給するなど、熱中症に留意してください。

●脚立での作業や、農業機械での作業時等の作業安全対策を徹底し、農作業事故発生防止に十分努めてください。